

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日普上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿

No.40

令和2年3月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <http://myojyuj.or.jp>



無縁社会と寺縁その36

少しづつ春の気配を感じる今日この頃です。
さて、昨年末より発生した中国発新型コロナウイルスの猛威は、当初の予想を上回り、人災と思われる対応の悪さと相俟って世界中にその惨禍が拡がっていました。
鎌倉時代、宗祖は国家・社会に警鐘を發せられ『立正安国論』をして、「天変地天飢饉疫癘遍く天下に満ち」とその様相を描写されましたが、近年の自然災害、そして、この度の新型コロナウイルス、まさに宗祖のご指南そのままであり、これらは私共の心のあり様にその根本原因があるとされるのです。
ところで最近、行政をはじめとして、仏教寺院に対する厳しいご意見を多く耳にいたします。そこで思い至るのは、仏教寺院も日頃なかなか目には見えづらいのですが、所謂、矯正行政に尽くしておられる僧侶、或いは他宗教の聖職者の方々が如何に多いかであります。保護司、教誨師、篤志面接委員、民生委員等、また、広く見渡せば幼児教育から大学教育まで、宗教の関りは多岐に亘ると思われまふ。
前述の惨禍における悪しき行い（人災）も、人を助け寄り添うという善意も、同じ人間の心より出でるものに変わりはありません。
宗祖の教えの大切さは、人としてその心の在り様を如何に正しく、間違わぬ様に日々を勤めるということに他ならないと思う次第であります。

鴉 鵲



仏画絵師 中村美希・画「象」
＊個展「中村美希展」のご案内は下記参照

新たな年へ願いを込めて 新年初参り

令和初の元日、好天に恵まれ、二百数十名の方にお参り、墓参をいただきました。

児童文学作家・高木敏子さん（『ガラスのうさぎ』の著者）もご子息夫妻と共に御参りをいただき、当住上人夫妻としばしの間、歓談をされました。87歳にしてお元気でいらっしゃる高木さんは、戦時中11、12歳のころ当山に身を寄せられ、お寺で生活された日々を懐かしそうに語られました（写真上）。

9日には、サンフランシスコ日蓮教会総代（理事）の鈴木友子さんがご子息レスター氏、お孫さんコリー君と共に彼の地（サンフランシスコ）よりご来山、ご挨拶にお見えになりました。87歳とは思えぬお元気で、彼の地のご信者の様子などご報告いただきました（写真下）。

高木さん、鈴木さんのご健勝を心よりお祈りいたします。



法要のご案内

（別紙参照）

春の彼岸法要

3月20日（金・祝日）

午前11時 中日合同法要初座
正12時 歴代墓所並びに正隆廟法要・動物廟法要
午後2時 中日合同法要第二座

東京大空襲祥月忌 参加者募集

当山では、法華宗東京教区青年会による東京大空襲祥月忌法要に毎年参列しております。

日時：3月10日（火）午後3時

場所：東京都慰霊堂 東京都墨田区横綱 2325 都立横綱岡公園内

参加をご希望の方は、當山までご連絡ください。
ご連絡先 03-3308-1251（當山）

猿江稲荷社例大祭法要

當山は、これまで猿江稲荷社別当仏教寺院として祈願供養する社として、毎年5月に例大祭法要を奉修し現在に至っております。

皆様のご先祖様もお参りをされた、妙壽寺猿江稲荷社例大祭法要に是非ご参拝をいただきたくご案内申し上げます。

日時：5月7日（木）午前11時（例大祭法要約30分程です）

集合場所：當山猿江別院 江東区猿江 2514

参加費：3,000円（猿江稲荷崇敬会費及びお土産代）

法要後は、スカイツリーの眺望が良い錦糸町東武ホテルにて昼食懇親会。（昼食費は別途で実費3,500円程度となります）

正隆会 春の湘南ウオーク

～鵠沼清明庵と新江ノ島水族館見学会～

當山の法華の道場である鵠沼清明庵と地球最後のフロンティアとされる深海生物の展示に力を入れている新江ノ島水族館バックヤードツアーを行います。
奮ってご参加ください。

日時：令和2年4月18日（土）定員：40名
参加費：大人5,000円、中・高生4,000円
小学生3,000円

コース（予定）小田急江ノ島線鵠沼海岸（新宿より約80分）
駅前集合10:30→清明庵10:40→鵠沼海岸駅→小田急線（電車移動）→片瀬江ノ島駅→貝作（昼食江ノ島産海の幸コース）
12:00→新江ノ島水族館見学（バックヤード含む）13:30～
→新江ノ島水族館見学後現地解散15:00頃

＊解散後は引続き、新江ノ島水族館、江ノ島、龍口寺等の散策をお楽しみ下さい。（詳細は別紙参照）

猿江別院御写経会

次の日程で、すべて午後1時より午後7時まで開催。

第14回 4月10日（金） 第17回 10月2日（金）
第15回 6月5日（金） 第18回 12月4日（金）
第16回 8月7日（金）

参加費：500円（御写経御手本・半紙・美味しいもの）
＊御写経御手本・半紙・書道具筆ペンをご用意いたしております。

つつじ 躑躅観賞会

皆様のご先祖の眠る同じ境内に、美しく咲き誇る躑躅をお楽しみください。

4月25日（土）・26日（日）

＊26日（日）は、鍋島客殿の2階より躑躅をご鑑賞いただけます。
また、25日はお茶会が開催されておりますため、鍋島客殿は一部入室出来ない場合がございます。
なお、お茶会当日は、お茶券をお持ちでない方のためのお抹茶コーナーが併設される予定です。



当住上人の

宗務院 DIARY

12/27,1/8,2/7 内局会議	1/31 日本宗教連盟理事会 於代々木神社本庁
1/8 本山林内局連絡会議	2/7 法華宗情報引き継ぎ会
1/29・30 僧階諮衡会	2/14 宗祖聖誕800年 実行委員会
1/30 全日本仏教会理事会、新年懇親会	

- 12月21日 園田顕敦師内室みあき夫人逝去 清華院妙和日恵大姉、享年59才。24・25日、当山本堂にて肅やかに通夜・葬儀が厳修されました。①
- 1月1日 元旦国持会 午前5時、元旦国持会には竹崎清彦氏（檀家世話人）、令嬢もご参拝いただき、職員共々ご祈願供養いたしました。②
- 1月10日 茶道裏千家淡交会新年互礼会 於ホテルニューオータニ
- 1月14日 江戸千家家元初釜 於本郷弥生
- 1月16日 茶道裏千家淡交会初釜式 於市ヶ谷加賀町
- 1月18日 令和2年当山新年会 総代会、年頭法要③ 総代世話人・婦人会総会、新年懇親会
- 1月22日 宗務総長二瓶海照台下お見舞い 富山・信行寺
- 1月26日 立正寺三鷹別院創立一〇周年並びに宗祖聖誕八〇〇年記念法要 節分会
- 2月3日 総代雲下洪平・翠ご夫妻はじめ正隆会メンバーにより豆まき、その後、太巻きで会食の楽しいひと時。④

寺日記

てらにつき



お正月干菓子

数十年継続してお出ししております日本橋「ときわ木」（檀家世話人・森宗一郎ご主人）製お正月お干菓子を、今年も三が日ご来山の方々に楽しんでいただくことができました。

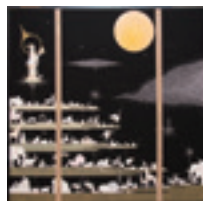


「中村美希展」

～稀有なる美しい線と気高さ～

猿江別院本堂内陣展示の一双屏風「月の宴 華の宴」（写真）の作者、仏画絵師・中村美希氏の個展が開催されます。奮ってご鑑賞ください。（入場無料）

❖高島屋新宿店10階美術画廊
2020年2月26日→3月9日
❖日本橋高島屋S.C.本館6階美術画廊
2020年4月15日→21日
❖高島屋横浜店7階美術画廊
2020年5月20日→26日
＊ほかにも大阪・京都で開催されます。



正隆会

【SHORYU-kai】

午後2時開催

月例講
ご案内

3月14日（土）	勉強会「日蓮紀行」拝読7
4月18日（土）	春の湘南ウオーク
5月7日（木）	猿江稲荷社例大祭法要
5月16日（土）	勉強会「日蓮紀行」拝読8
6月13日（土）	勉強会「日蓮紀行」拝読9
7月11日（土）	勉強会「日蓮紀行」拝読10

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

宗祖聖誕 800年記念・本堂落慶 35周年記念イベント

泊 三夫氏

（当山総代／一般社団法人ソシオ・エンジン・プロジェクト 会長兼代表理事）

聞き手 三吉廣明上人

令和元年9月24日

於・乃木坂俱樂部（港区赤坂）

宗教教団と宣伝広報

住職 実はこの間、私どもの宗派の研究所があって、そこでも調整の話が出ました。そここのところの価値観に対しては、やはり宗教の責任というか、宗教が前にいい意味で出ていくという、責務があるのではということでした。でも、文化やスポーツ、芸能とかは、人々の生きる糧にタッチしている仕事だから、それはそれで大事ですが…。

宗教が人の気持ちをつかんでいくような部分と、広告会社で不特定多数の方々へ何かを訴えていくということ。それは、例えば既成宗教の中では、お檀家さんとか決まった方々とのコンタクトはあるけれど、本来は不特定多数の方々へ訴えていかなければいけない。今、まさにお寺離れ、檀家離れという中で、考え直す時期に来ているんですね。そういう点から、広告会社の根本みたいなところと宗教というのは、泊総代はどのようにお考えですか。

「よいなど、強烈な印象を持ちました。ですから、我々の宗教的な意味で言うところ、例えば日蓮聖人が街頭布教したとか、そういうことも多分そういう面なのだろうと。そこで共感する人たちが出てくるということ、今の時代は宗教というのは、その意味では宗教はリセットされる方向にある。本当のものしか残らない、より厳しい時代が来ると思います。やはりそれぞれの教団が自分たちの持っているものはすばらしいと思っていけるので、そこをどのように世に問うて、賛同者とか教導者たちをつかんでいくのは大きいです。逆に、僕らのほうが広告会社に学ばなければいけない部分があると思います。」

泊 よく言われるのは、「共感をとる」というのは、広告会社にいる人間の生業として一番大きなところですね。平たく言えば、好き嫌いの、好きにさせたほうが物が売れるんです。それは、選挙でも同じです。

住職 ああ、なるほど。

泊 理屈じゃなくて、好きにさせるということができるかできないかがものすごく大きい。それを四六時中考えるんですね。泊総代のお話の中で、お兄様（泊懋氏）も含めてですが、テレビ時代になった50年前の流れと、今の15年、20年前のIT時代。ITということが出てきて、やはり広告会社の世界も激変していますか。

泊 激変しています。広告会社の女性社員さんが過労死したのはある意味象徴的でして、テレビが出た時代に、本当に24時間働けますかというのが広告会社そのものだったんです。でも、放送というルールのもとで休み時間をつくるんです。今のインターネットは休み時間をつくれないうんです。

だから、広告の効果ををはかるというのは、いわゆるどこまで届いたか、数ほどのぐらいいったか。それから、レスポンスはどのぐらいとれたかということ計算するわけですね。それはデジタルの世界で瞬時にできるんです。でも、お客さんより早くそれをつかまなきゃいけないで、次の対策を出さなきゃいけないんです。これは、次の対策を出すといっても、24時間働き続けなくていいんです。だから、我々のなりわいはもう地獄のような状況だったと思いますね。

私は去年3月に退社しましたが、（こ



みどり夫人と

の業界は）かわいそうだなと思って、ついに来たかみたいな感じですね、本当にこの業界にいる限り、生きた心地はみんなないんじゃないですかね。そういうメディアの時代になっていくというのと、企業も自分で客をつかめなくなりましてね、完全に。つまり、ある種の、言葉は悪いですけど、洗脳工作で囲い込んである程度洗脳できたのですが、今は、もう完全にインターネットのおかげで選択権が消費者の側に行ってしまうので。テレビの時代は口ではクライアントや我々も、「消費者の時代ですから選択権はあります」とか言って、ないように持っていていくわけですから。今はもう選択権がないように持っていくようになっていくようですね。

住職 なるほど、そうですね。

泊 だから、そういう意味では本当にメディアは激変しているんじゃないですか。多様な選択が可能になったと。最近の言い方をすればダイバーシティー（編集注・多種多様な意味合い）というので、まさにこの時代なんですよ。そういう中で、さらにお金をつぎ込んでやろうとしたら、どれだけ多額なお金が必要かと、すごい資本力でやることになってくる。一番恐ろしいのは、GAF A（ガーファ・グーグル Google、アップル Apple、フェイスブック Facebook、アマゾン Amazon の4社のことで、IT市場を席巻し、動向を見逃せない有名企業群）が解析技術を持っていますので、大体のことは読めてしまう。誰が何をしてどこで何を買って。という、もうその人にそういう情報しか届かないようにインターネットはなっていますから、逆に言うと、もっとコントロールをされる時代に少しずつ入ってくると思います。そういう流れの中で、どう選択するかという価値観のウエイトがすごく高くなると思います。

そういう意味では、人間の心とか脳とかに、どう休めるかとかいうことがものすごく重要になってきています。いわゆるエリートというか、働いていなければならないで、どう休めるかということがものすごく重要になっているような時代だと思えます。リゾートと我々が言うもののあり方なども全部変わってきますね。

住職 いやー、すごくおもしろい話ですね。

現在の活動

——国内外にわたる貢献

住職 その前後に、ミャンマーに行かれましたが、きっかけは何でしょうか。

泊 2012年10月がスタートですね。そのときにたまたまアウン・サン・スー・チーさんを入づいて知り、その人とスー・チーさんのお宅に伺って話をしたら、水のことを言いました。乳児の死亡率が高いので、何とかしてくれと。もう1つは、本を読む機会が子供たちにはない。教育の機会がないから、本がない。だから世界中の本を集めて勉強させたい。移動図書館をつくって欲しいかというのが2つ目。3つ目が、タイに竹を運んでいる一産地です。タイはそれを家具にしたりして加工して、世界に売ってもらうけている。タイは1日何ドルと稼げるが、ミャンマーでは1日2ドル以下で、食っていけないと。でも、馬とかロバが引いて竹を運んでいる。ただ切って運んでいるだけここで生産できるような仕組みをつくってくれと、3つをお願いされました。

移動図書館というのはすぐに実現できました。バスを日野自動車にお願いし、バスを提供してくれました。あとは、本を集めるのは自分たちでやるからというので、さすがスー・チーさんだから、世界に呼びかけたらわあっと集まりました。中の構造をつくるのと、運転手の報酬はボランティアで集めました。大した金額でないんですよ、1日500円ぐらいで暮らせる人たちなので。15万円ほど集めてぼんと置いてきたら、それでできちゃうと。今はあちこちの車メーカーとかがバスを提供して、移動図書館の数が14台も移動しているそうです。

それは成功したんですが、水の問題は結局いまだに成功できないのは、やっぱり非常に難しい利権といいますが、制度とか、いろんなものがあってなかなかできない。日本側にも問題があって、金額の単位が大きくないとJICAのお金が出ないとか、日本の技術を出さないとだめだと。日本の技術を持っていっても使えないんです。電気がないですから。だから、そもそも援助の仕方とか考え方が間違っていますね。それを言っても始まらないので、できない。竹の生産をもう少しやっていこうということで、タイの工場を見学したりして、少しずつやっています。でも、ものすごく時間がかかります。

住職 今のお仕事というのは、諸団体に對する仕組みづくりのお手伝いをするということが主な仕事なのですか。静岡県でプロジェクトを進めておられるとか。

泊 街道をつなげていく。地域創生といつてもできないかと思っていますので、地域がどんどん高齢化して、若者が減少し

ていくと「衰退」していきますから、経済も成り立たない。だから、むしろつなげていく以外に、多分日本は貧しい国になっていくから、展望がないのではないかなと思っています。街道を、昔で言えば宿駅伝馬制というのがあります。その仕組みを現代に置きかえ、新しいテクノロジーでつなげていくような仕組みができないとだめなんじゃないかと思っています。地域が。というの、結局今のやり方でいくと、大きな会社と大きな資本が全てになります。絶対勝てません。

だから、僕が手伝っている静岡市の範疇でも、もう老舗のお店はほとんど潰れています。後継者もいないし、いたとしても経営できない。やはりコンビニのような類いのものがほとんど席巻しますね。だから、食い物から土産物に至るまで全部、いわゆる集中した資本を持ったところが席巻するような時代に入っています。

住職 本当にそうですね。たまたま私どもが居ります鳥山の商店連合会が30年、50年、スタンブ事業で頑張つて、全国に名だたる商店街に育っています。それは個人商店を潰さないようにするには、まず大規模店舗が入ってこないようにするのと、スタンブ事業など創設して常に集客をするようにして、シャッター商店街にならないよう努力しています。全国的に成功した例はまれで、どこの商店街に行ってもシャッター商店街になっていますね。

先般、研修で札幌へ行きましたが、小樽に立ち寄り、小樽は美にうまく観光客と住民が融合しています。興味深かったのは、石造りの建物が並ぶ一角に洋菓子店「ルタオ」があります。北海道土産の定番になっているチーズケーキやチョコレート菓子が、中国系観光客がこぞ買って行くようです。

しかし、ルタオは鳥取県米子市に本社がある会社の傘下にあることはあまり知られていない。泊総代がおっしゃったように、最近地元から東京の資本に変わって、東京が静岡のお菓子メーカーの資本に売り渡されるようですね。今どこに行っても、ある種アメリカのようにモーターレーションで、郊外のショッピングセンターに行けば、みんな同じ店しかないという、没個性になってきている。日本はある種豊かだった時代がありました。どうでしょうか、そういう将来像は。

泊 だから、ある意味デジタル社会が集団化を促進するんです。今の若い人たちは個店、小さなお店をつくって、インターネットを逆に利用して販売をしたりしています。逆に言うと、どこに暮らしていても、いつでもどこでも商売ができるようになりつつあるんです。ただ、そのときに何をしたいのか、個性をどう促進するようかなと思います。ただ、もう僕らの時

代ではなくて、まさに20代、30代の人たちが確実に、世界の市場も見えていながら、自分たちのエリアというものを考えられる、そういう時代じゃないかと思っています。

住職 今、ご子息様はお父様の事業をご一緒にお手伝いされているということで、大いに期待をしたいと思っています。やはりいろいろなところで何か話題になるところは、そういう仕組みをうまく、生はなかなかことじやないけれども、発展的なところが頑張っているなと思ったりします。

妙壽寺に望むこと ——文化活動の継続

住職 泊総代が法華宗、あるいは妙壽寺に、望まれることはございますか。

泊 いや、僕が逆に法華経とか勉強しながら、僕が逆にいるぐらいの感じなんです。全く接点がなくて。いつもお寺に行つて恥ずかしい思いをしているんです。

ただ、今、人のよりどころを求めたいという気持ちはものすごくある時代なので、そこをどうつかまえていくかをどうしたらいいのかなどというのは感じる時があります。だから、何となくお寺というの、僕なんか見ていると、積極的にかかわってくる環境もないじゃないですか。でも、妙壽寺が今、竹灯籠能を催したりすることは、すごくいいですね。

住職 ありがとうございます。

泊 ああいう文化活動は続けたほうがいいと思います。それを少しずつ地道にやりながら広げていくというのは絶対あります。その奥にあるものは何かというキーワードのようなものは幾つか用意したほうがいいと思います。

なぜ薪能をやっているのかとかいうのは、本当に一言でいいです。何かあったら、ああ、そういうことなのかと。先ほど言った共感ですね。共感をとる材料としてはすばらしい道具を持っていると思います。

住職 家内の里がお能の家なものですから。お能の実家の定期公演のときに、ある大学の先生のレクチャーがあつて、そこで家内が聞いてきて感動していた話としては、お能自体が仏教のプロパガンダだということを言つて、私もすごくそれには感銘しました。例えば全日本仏教会に私も関係していますが、日本の要するにオール仏教の団体も、仏教文化の宣揚ということが定款にきちつと出ています。で、我々はそういうことをこれから図つていかなければいけない。

そういう点で、泊総代にもこれからお力添えいただきたいと思います。今日は本当に長時間ありがとうございました。（一）